

The Learner

Doshisha International Academy Elementary School

**July
ISSUE**



**July, 2024
Volume 147**

Living the Learner Profile

June's Christianity monthly theme at DIA is Compassion. What does compassion mean in English and is it the same in Japanese (思いやり)? 思いやり can be translated as compassion or pity. Both can be examined through the lens of the Learner Profile as Caring since they show a concern for others in pain or with some need. Pity tends to be more a sense of feeling sorry for someone, most often unrelated and felt from a distance. Pity transforms into Compassion when we courageously become Risk-Takers and extend a hand to others in need, often times this is very difficult when that person is a stranger.

People who show the attribute of being Principled feel a strong need or want to do the right thing – anything they can to help make the situation better even if only in a small way. It is the sense of being Principled when coupled with being a Risk-Taker that helps us make good choices and follow through with them to help people who are sad or having trouble.

One of the amazing things about DIA students is their wonderful skills as Communicators which allows them to interact with many different kinds of people using both English and Japanese, as well as their skills as Thinkers to help them tackle problems and come up solutions to the many challenges that live presents.

Students' time spent at DIA helps prepare them for a demanding future by Living the Learner Profile.

DIAの6月のキリスト教のテーマは「思いやり」です。英語で思いやりは何を意味し、日本語の思いやりでも同じ意味なのでしょう。Compassion は、思いやりや哀れみと訳すことができます。どちらも、痛みを抱えている人や何らかのニーズを抱えている人への関心を示しているという意味で、ラーナープロフィールのレンズを通して見ると「思いやりのある人」として確認することができます。哀れみは、誰かを気の毒に思う同情的な気持ちになる傾向がありますが、ほとんどの場合、無関心で距離を感じます。私たちが勇気を持って「挑戦する人」になり、困っている人に手を差し伸べるとき、同情は思いやりに変わります。見知らぬ人の場合は、これは非常に難しいことだと思います。

「信念を持つ人」は、状況を少しでも良くするためにできることは何でも、正しいことを強く感じたり、良いことをしたいと思ったりします。「挑戦する人」であることと相まって、私たちが良い選択をし、悲しみや問題を抱えている人々を助けるために行動するのは、「信念を持つ人」であるという証拠です。

DIA の児童の素晴らしいところは、英語と日本語を駆使して様々な人と交流できる「コミュニケーションができる人」としての素晴らしいスキルと、問題に取り組み、人生で直面する多くの課題に対する解決策を考え出すための「考える人」としてのスキルを持っていることです。

DIA で過ごす時間は、Living the Learner Profile (ラーナープロフィールを生きる)によって、予測ができない未来に備える力を身につけます。

Scott Hemphill 学務幹事



キリスト教教育

7月：平和 July：Peace

聖書：「きょうだいたち、あなたがたに勧めます。…気落ちしている者を励まさない。
弱い者を助けなさい。すべての人に対して寛大でありなさい。」

テサロニケの信徒への手紙一 5章14節（聖書協会共同訳）

6月の中旬に関西地区の聖書科研究集会があり、金沢の北陸学院に行って来ました。そちらの学院のキリスト教センターでは、この度の能登半島地震の支援金窓口を設けておられますので、ぜひとも伺って直に色々なお話を聞いてみたかったのです。

金沢の町自体に地震の痕跡を感じることはありませんでしたが、講師である北陸学院大学の先生方からは、ボランティア活動を通じた貴重なお話を幾つも伺うことができました。その中で特に印象的だったのは、ボランティアの大学生たちがたった1時間、家の周りに散らばった瓦を片付けてさし上げただけで、その家の方の表情がみるみる元気になり、「またこの家で住み続けようという気持ちになった。」とおっしゃられた、という話でした。若いエネルギーに溢れた青年たちにとっては恐らく1時間程度の片付けは、お喋りしながらあっという間に過ぎる時間かもしれませんが、しかし被災して家が壊れただけではなく、精神的に打ちひしがれた状態にある年配の方々にとっては、もし片付けがたった一人で取り組まねばならない仕事であれば、耐え難い苦痛の時間になることでしょう。自身の老体と家の損壊とを重ね合わせ、「これで自分の人生も終わった。」と悲観してしまうのも無理はありません。講師の先生方は、長期休暇や連休などを利用して学生ボランティアを募り、積極的に被災地に入っておられるそうです。「よく被災地にボランティアが入ることに対して否定的な意見を聞くことがあるが、決してそんなことはない。学生たちと会話を交わすだけでも、現地の老人や子どもたちは笑顔になってくれる。被災地の人々にとって、忘れられることが一番怖いのだ。」という趣旨のお話もありました。これについて、私はすぐに「善いサマリア人」の物語を思い出しました。

「ある人がエルサレムからエリコへ下って行く途中、追いはぎに襲われた。追いはぎはその人の服をはぎ取り、殴りつけ、半殺しにしたまま立ち去った。ある祭司がたまたまその道を下って来たが、その人を見ると、道の向こう側を歩いて行った。同じように、レビ人もその場所にやって来たが、その人を見ると、道の向こう側を歩いて行った。ところが、旅をしていたあるサマリア人は、そばに来ると、その人を見て憐れに思い、近寄って傷に油とぶどう酒を注ぎ、包帯をして、自分のろばに乘せ、宿屋に連れて行って介抱した。そして、翌日になると、デナリオン銀貨二枚を取り出し、宿屋の主人に渡して言った。『この人を介抱してください。費用がもっとかかったら、帰りがけに払います。』さて、あなたはこの三人の中で、だれが追いはぎに襲われた人の隣人になったと思うか。」律法の専門家は言った。「その人を助けた人です。」そこで、イエスは言われた。「行って、あなたも同じようにしなさい。」

ルカによる福音書 10章25節 - 37節（新共同訳）

この善いサマリア人として、怪我人につきっきりで看病していたわけではありません。一旦は怪我人を離れ、自分の仕事へと戻って行きました。ただし寄り添う心と必要な金銭は置いたまま。私たちにとっても一時自分の時間を割く、所持金の一部を提供する、という行為が、傷ついた相手と心を共にすることになるのではないのでしょうか。

Christian Education Committee チャプレン石川眞弓



第144回関西地区聖書科研究会 講演の様子（於 北陸学院中学校・高等学校）

<お知らせ>

① 2023年度の「おにぎり献金」の集計は35万円でした。献金は、5万円ずつ、以下の施設にお捧げしました。

・国内：岩手キリスト教学園認定こども園宮古ひかり、福島県の若松聖愛幼稚園、熊本県の慈恵病院「こうのとりのゆりかご」、北陸学院キリスト教センター（石川県能登半島地震支援金口）

・海外：日本ユニセフ協会「ウクライナ緊急募金」・「トルコ・シリア大地震」・「ガザ人道危機」

② 7月9日（火）おにぎり献金

今年度も上記の施設にお捧げします。賛同していただける方は、お子様に献金をお持ちください。

Grade 5 田植えを体験したよ！

初めての田植えでした♪

5年生は、京都やましろ農業協同組合（JA やましろ）と木津川市役所のご協力のもと、田植え体験に出かけました。朝から雨でしたが、出発する時間にはすっかり晴れ上がり、笑顔で参加することができました。

田んぼにはサンダルを脱いで裸足で入ります。足先の初めての感覚に歓声を響かせながら賑やかにスタートしました。

さすが DIA の子ども達です。あっという間に慣れた手つきでテンポよく植えるようになり、一時間も経たないうちに広々とした田んぼが子ども達の苗で埋め尽くされました。Music で習った労働歌を歌いながら、みんな泥だらけになってがんばりました。



Unit 1 Where we are in place and time

こちらの体験は、「農業」をテーマとした Unit 1 の探究の一環として行いました。

子どもたちは4月からの6週間、お米作りを中心に農作物について調べたり発表したりして、探究を深めました。そのなかで、天候に合わせた品種の改良や、肥料や水量の調整や雑草抜きなど、農業に関わる方々がたゆまぬ努力をされていることを学びました。



今回の体験では、自分の足の裏で水の入った田んぼの土に触れ、農家の方々の工夫や苦勞を感じるたいへんよい機会になりました。

心を耕し、よい土地を作ろう

聖書に「種を蒔く人」のたとえがあります。農家の方々が日々田んぼを管理するように、子ども達が日々の生活のなかで心を耕し、まかれた神様の言葉が育つよい土地を作り、将来たくさんの実を結ぶことを願っています。



ところが、ほかの種は、良い土地に落ち、実を結んで、あるものは百倍、あるものは六十倍、あるものは三十倍にもなった。マタイによる福音書 13:8



夏休み貸出がはじまります

今年度の夏休み特別貸出期間は、**7/8(月)-7/19(金)**となっております。和書・洋書5冊ずつ、合計10冊の本を借りられる特別な機会です。

※借りたい本がしっかり入るよう、大きくて厚手の布バッグをご用意ください。

また、ライブラリーでは夏休み貸出に向けて、展示コーナーも大幅に変更いたしました。夏休みに読みたい、お気に入りの本をぜひ見つけてください。展示中の本は、DIA LibraryのOPAC『ブックリスト』にてご覧いただけます。(QRコードよりアクセスしてください。)

読書感想文の課題図書



PYP・Unitに関連する本



おすすめのミステリー小説



7月の主な行事・予定

7月20日～8月27日 夏季休業日

1	月	Unit2(Buffer week)
2	火	
3	水	委員会/ Student Committee
4	木	Swimming (G3,2,1)
5	金	
6	土	
7	日	
8	月	
9	火	
10	水	クラブ/ Club activities
11	木	
12	金	
13	土	
14	日	
15	月	海の日/ Marine Day(National Holiday)
16	火	学期末カンファレンス(AM lesson) End of the spring trimester
17	水	学期末カンファレンス(AM lesson) End of the spring trimester
18	木	学期末カンファレンス(AM lesson) End of the spring trimester
19	金	終業礼拝/ Closing worship service 学校安全点検日/ Safety check up day
20	土	
21	日	
22	月	
23	火	
24	水	
25	木	
26	金	
27	土	
28	日	
29	月	
30	火	
31	水	

8月の主な行事・予定

8/28 始業礼拝(午前授業)/ Opening worship service